

題材	I 歌声を響かせて心をつなげよう			4月(3時間)
目標	曲想や歌詞を基に、曲のイメージを思い浮かべ、曲に合った強弱を意識しながら声を合わせて歌っている。			
評価 規準	(②知・技) 歌詞の内容と曲想との関わりを理解し、曲想に合った強弱で歌っている。 (②思・判・表) 曲想に合った声の強弱や音色について思いや意図をもっている。 (③主体的態度) 曲想や歌詞から曲のイメージを思い浮かべ、楽しく歌おうとしている。			
教材	すてきな一歩 長井理佳 作詞 長谷部匡俊 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P10・11 こいのぼり 文部省唱歌 ヘ長調 4分の4拍子 P12・13			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	I	○『すてきな一歩』の曲想を感じ取りながら歌い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 歌詞に合った歌い方で歌おう	○歌詞や曲想と、曲のイメージを結び付けられるように、好きな歌詞とその理由を伝え合う機会を設定する。	◇歌詞や曲想の関係に関心を持ち、曲のイメージを考え、伝えたり記述したりしている。 <発言・記述③>
追求する	I	○『すてきな一歩』の曲想に合った歌い方を工夫する。	○曲想に合わせて強弱や音色、発声に気を付けて歌えるように、曲想に合った歌い方ができている子を紹介する。	◇歌詞に合う強弱について思いをもったり、歌詞に合う強弱や音色で歌おうとしたりしている。 <表現②>
生かす まとめる ・	I	○『こいのぼり』の楽曲に合った歌い方で歌う。	○歌詞や旋律とこいのぼりの様子を結び付けられるように、こいのぼりの情景がわかる写真を用意する。	◇歌詞や曲想から曲のイメージを広げて、強弱や音色を工夫しながら主体的に歌おうとしている。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：音色，旋律，強弱				

題材	2 音の重なりを味わおう			5・6月（6時間）
目標	曲想と旋律の重なりや音色との関わりを聴き取り、旋律をきれいに重ねて合唱や合奏をする。			
評価規準	(①知・技)曲想と旋律の重なりや音色との関わりを理解している。 お互いの声や音を聴き合いながら、曲想に合わせて、旋律をきれいに重ねて歌ったり演奏したりしている。 (②思・判・表)曲想に合わせて旋律の重ね方や音色を工夫して表現したり、旋律の重なり合う響きのよさや美しさを感じ取って聴いたりしている。 (③主体的態度)旋律の重なり合う響きのよさや美しさに関心をもって、進んで表現したり聴いたりしている。			
教材	小さな約束 佐井孝彰 作曲 イ短調 4分の4拍子 P16・17 いつでもあの海は 佐田和夫 作詞 長谷部匡俊 作曲 ヘ長調 4分の4拍子 P18・19 アイネクライネナハトムジーク 第1楽章【鑑】 モーツァルト 作曲 P2			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『いつでもあの海は』を聴いたり歌ったりして学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 旋律の重なり合う響きを味わいながら合唱や合奏をしよう	○旋律の重なりや音色によって響きが変わることを感じ取れるように、場面ごとに聴いたり歌ったりして曲想を比較する時間を設定する。	◇旋律の重なりや音色を聴き取り、曲想の違いについて発言や記述をしたり、進んで声を重ねて歌おうとしたりしている。 <発言・記述③>
追求する	1	○『いつでもあの海は』を二部合唱する。	○曲想と旋律の重なり合う響きとの関わりに気付けるように、曲想と、旋律の重なりや音色の特徴とのつながりを模造紙に整理する。	◇曲想と旋律の重なりや音色との関わりについて発言や記述をしたり、お互いの声を聴きながら、声を合わせて歌ったりしている。 <発言・記述・表現①>
	1	○『小さな約束』の各旋律をリコーダーで演奏する。	○曲想と音の重なりや音色との関わりに気付けるように、音の重なり方を拡大譜に整理する。	◇曲想と音の重なりや音色との関わりについて発言や記述をしたり、お互いの音を聞き合いながら、旋律をきれいに重ねて演奏したりしている。<発言・記述・表現①>
	1	○『小さな約束』の各旋律を重ねて演奏する。	○リコーダーの音を重ねて演奏できたことを実感することができるように、録音を聴く機会を設定する。	◇音を重ねて演奏することについて思や意図をもち、それを生かして演奏することができる。 <表現②>
・ま生とかめする	2	○『アイネクライネナハトムジーク』を、旋律の重なり合う響きに気を付けて聴く。	○旋律の重なりや音色の違いによる曲想の変化に気付けるように、総譜を場面ごとに提示する。	◇旋律の重なり合う響きのよさや美しさを感じ取ったり、旋律の重なりや音色の違いによる響きの違いを聴き取ったりしたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：音の重なり、音色 ・題材のつながり：4年「重なり合う音のひびきを楽しもう」				

題材	3 いろいろな音のひびきを味わおう			6・7月(8時間)
目標	曲想と楽器の音色との関わり気付き, 楽器の音色を味わいながら聴いたり, 打楽器で音楽をつくったりする。			
評価 規準	(①知・技)曲想と楽器の音色との関わり気付き, 各声部の楽器の音色や楽器の音の重なり合う響き生かして旋律をつくっている。 (②思・判・表)曲想と楽器の音色との関わりを生かし, 楽器の音の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくることについて思いや意図をもったり, 楽器の音色を味わいながら曲を聴いたりしている。 (③主体的態度)様々な楽器の音色に関心をもち, 楽器の音色を重ねて音楽をつくったり音楽を聴いたりする活動に主体的に取り組もうとしている。			
教材	祝典序曲 ショスタコービチ 作曲 p26 リボンのおどり(ラバンバ) 芙蓉明子 日本語詞 メキシコ民謡 原由多加 p24 打楽器でリズムアンサンブル p30			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『リボンのおどり』を体を動かしながら聴いたり, 各パートの旋律を演奏したりして, 学習のめあてをつかむ。 学習のめあて いろいろな音色を感じ取ろう	○曲の場面をイメージできるように, 二人組でリボンを用いて『リボンのおどり』に合わせて踊る時間を設定する。	◇曲想を感じ取り, 曲の場面について発言や記述をしたり, 曲に合わせて体を動かしたりしている。 <発言・記述・表現③>
追 求 す る	1	○『リボンのおどり』の旋律の重ね方を試す。	○グループのストーリーに合う旋律の重ね方を考えられるように, グループのストーリーと演奏の工夫をつなげて記入できる, 楽譜の記されたタブレットを用意する。	◇グループのストーリーに合う旋律の重ね方について発言や記述をしたり, 旋律の重ね方を変えて演奏したりしている。 <発言・記述・表現②>
	1	○『リボンのおどり』の合奏をする。	○旋律の重なり合う響きのよさや美しさを味わうことができるように, 発表するグループの合奏に合わせて, 体を動かす時間を設定する。	◇曲のストーリーに合う旋律の重ね方を工夫し, 響きのよさに関心をもち, お互いの音を聴き合いながら, 旋律を重ねて演奏している。 <発言・記述・表現①②③>
	1	○オーケストラの楽器を調べたり, 『祝典序曲』を聴いたりする。	○様々な楽器が使われていることに気付けるように, オーケストラの演奏している動画を用意する。	◇楽器の音色やそれらが重なり合う響きのよさを見だし, 発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
	1	○『祝典序曲』を場面ごとに聴く。	○主な旋律を演奏する楽器と曲想とを関連付けて聴けるように, 場面ごとの主な旋律を演奏する楽器を提示する。	◇楽器の音色と曲想との関わりに気付き, それぞれの楽器が活躍する場面の曲想について発言したりしている。 <発言・記述①>
	2	○『打楽器でリズムアンサンブル』のリズムパターンを様々な楽器で演奏する。	○リズムアンサンブルをつくる際の発想を得られるように, 様々な楽器やリズムパターンで演奏する機会を設定する。	◇楽器の音色やリズムパターンの組み合わせによる曲想の変化について気付き, 発言している。 <発言①>
・ま と め か す	1	○『打楽器でリズムアンサンブル』を, グループごとにつくる。	○楽器の音色の様々な組合せや重ね方に気付けるように, 試している間に, それぞれのグループの考えた旋律を紹介し合う機会を設定する。	◇楽器の音の組合せや重ね方を工夫することについて思いや意図をもち, 旋律をつくっている。 <発言・表現①②③>
【備考】				
・よりどころとなる音楽を形づくっている要素: 音の重なり, 音色 ・題材のつながり: 4年「いろいろな音のひびきで表現しよう」				

題材	4 和音の世界へようこそ			8・9月(3時間)
目標	I・IV・V・V ₇ の和音を理解するとともに、音の重なりや和音の響きを感じて表現する。			
評価規準	(①知・技) I・IV・V・V ₇ の和音を理解するとともに、自然で無理のない声で歌ったり、基本的な奏法に気を付けて鍵盤ハーモニカで演奏したりしている。 (②思・判・表) 歌詞や旋律から、強弱やテンポ等の表現の工夫を思い浮かべたり、和音の響きの違いを感じ取って、旋律に合った和音伴奏を工夫したりしている。 (③主体的態度) I・IV・V・V ₇ の和音の響きの違いに関心をもって聴いたり、表現に生かそうとしたりしている。			
教材	こげよマイケル 長崎一男 日本語詞 スピリチュアル/長谷部匡俊 編曲 ハ長調 4分の4拍子 p36 静かにねむれ 武井君子 日本語詞 フォスター 作曲/浦田健次郎 編曲 ハ長調 4分の4拍子 p34			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『こげよマイケル』の後半部分の三部合唱や鍵盤ハーモニカ奏を基にI・IV・V・V ₇ の和音があつ響きの違いを感じ取り、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 和音のひびきの変化を感じ取って表現しよう	○キーボード等で3つの旋律を演奏したものを提示して、和音の響きを感じ取れるようにする。	◇歌詞や旋律から表現の工夫を思い浮かべたり、和音の響きの違いに関心をもって表現したりしている。 <表現③>
追求する	1	○『静かにねむれ』の和音伴奏を基に、I・IV・V・V ₇ の和音の響きの違いを感じ取って、歌う。	○様々な和音による伴奏を例示し、和音の響きの違いを感じ取り、旋律に相応しい和音の響きに気付けるようにする。	◇I・IV・V・V ₇ の和音の響きの違いを感じ取りながら、歌っている。 <表現①>
・まとめ	1	○『静かにねむれ』の和音から旋律をつくる。	○和音の中の音を選ぶことで旋律が作れることに気付けるように、ワークシートや和音の音源を用意して配付する。	◇和音の響きを聴きながら、主旋律に合う伴奏を付けたり、自然で無理のない声で歌ったりしている。 <表現①②③>
【備考】 ・キーボード、範唱CDを準備する。 ・学習する音楽を形づくっている要素： 和音の響き 、音の重なり、呼びかけとこたえ ・用語：へ音記号、I・IV・V・V ₇ 全音符				

題材	5 思いを歌にのせて		9月(5時間)
目標	曲に込めた思いが伝わるように、曲想と詩や歌い方との関わりを生かして表現している。		
評価規準	(①知・技)曲想や詩と歌い方との関係に気付き、歌詞の表す気持ちや情景を表情豊かに歌っている。 (②思・判・表)曲想と声の重なり合う響きや歌詞の内容などとの関わりを生かした表現について思いや意図をもっている。 (③主体的態度)今までに習ったことを生かして、思いが伝わるように友達と声を合わせて表現する学習に主体的に取り組んでいる。		
教材	学年選択合唱曲		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○『学年選択合唱曲』を歌ったり、曲想や歌詞から感じたことを伝え合ったりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 歌に思いを込めて、表現を工夫しながら歌おう	○思いを込めて歌ったり演奏したりしたいという意欲がもてるように、前橋市児童生徒音楽会で歌う曲の曲想や歌詞、自分の経験を基に、伝えたい思いを考え、共有する時間を設定する。
追求する	1	○『学年選択合唱曲』のそれぞれの旋律を歌う。	○自分の歌っている旋律と友達の旋律の関わりや役割に気付けるように、拡大楽譜を用意し、それぞれの関わりについて話し合う機会を設定する。
	1	○『学年選択合唱曲』の歌詞から、気持ちや情景を想像しながら合唱する。	○歌詞や曲想と、自分の感情や経験とを結びつけて歌うことができるように、自分が共感できる歌詞やお気に入りの部分を歌詞カードに書き込み、共有する時間を設定する。
	1	○『学年選択合唱曲』の歌詞や伝えたい思いに合った歌い方を、工夫しながら合唱する。	○自分たちの伝えたい思いや意図と、歌い方の工夫とが結びつけられるように、録音をしたり、パートやグループごとに聴き合ったりして、実現度を評価・判断する場を設定する。
	1	○『学年選択合唱曲』を、音楽表現の工夫を生かしながら、学年全体で二部合唱する。	○学年全体で発表することへの思いが高まるように、各学級で取り組んできた思いや表現の工夫を共有する時間を設定する。
・ま生とかめする	1	○『学年選択合唱曲』を発表する。	○曲に思いを込めて歌うことができるようになったことを実感できるように、演奏を保護者へ向けて発表する機会を設定する。
			◇曲想と歌詞の表す内容や曲想との関わりに気付き、それらを生かして表現したいという思いや意図をもち、主体的に歌ったり思いを伝え合ったりしている。 <発言・記述①②③>
			◇旋律の特徴や音の重なりについて気付いたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①>
			◇曲想と自己の経験や感情とを結び付け、音色や強弱などの音楽表現の工夫について歌詞カードや楽譜に記述したり、発言したりしている。 <発言・記述②>
			◇歌詞や伝えたい思いを表現するために、音の重なりや音色、強弱などの工夫を試しながら、繰り返し歌ったり発言したりしている。 <表現・発言①>
			◇曲想と関わりについて気付き、音色や強弱の工夫を考えた、工夫を生かしたりして音を合わせて歌っている。 <表現・記述③>
			◇曲想と音の重なりや音色、強弱などとの関わりに気付き、それらを生かし、思いを込めて主体的に表現している。 <表現①②③>
【備考】 ・学年選択曲は、夏休み前に学年教員と選曲し、子どもに提示する。 ・前橋市児童生徒音楽会で発表をする。 ・学習する音楽を形づくっている要素：音の重なり、音色、強弱			

題材	6 曲想の変化を感じ取るう			10・11月(7時間)
目標	曲想の変化を感じ取りながら想像豊かに聴いたり、曲想に合った楽器の音色やリズム伴奏を工夫してアンサンブルをしたりする。			
評価規準	(①知・技)曲想の変化と楽器の音色の関わりを理解し、楽器の基本的な奏法に気を付けながら音を合わせて演奏している。 (②思・判・表)曲想の変化を感じ取り、楽器の音色やリズム伴奏を工夫して演奏したり、曲想の変化を味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)曲想の変化に関心をもって聴いたり、アンサンブルをすることの喜びを感じて合奏に取り組んだりしようとしている。			
教材	威風堂々【鑑】 エルガー作曲 長谷部匡俊 編曲 p62 キリマンジャロ ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス 作曲/橋本祥路 編曲 イ短調 4分の4拍子 p42			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○旋律の繰り返しや曲想の変化に気を付けて『威風堂々』を聴き、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 曲想の変化を感じ取るう	○曲想が変化していることに気付けるように、部分ごとに取り出して鑑賞する時間を設定する。	◇ 曲想の変化を感じ取り、曲想が変化する面白さやよさについて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②>
追求する	1	○『キリマンジャロ』の演奏を聴き、グループごとに曲のイメージを思い浮かべる。	○曲想の変化に気付き、曲のイメージをもてるように、前半と後半を比較鑑賞する時間を設定する。	◇曲のイメージを思い浮かべ、気付いたことを伝えたり、記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『キリマンジャロ』の各旋律をキーボードで演奏する。	○キーボードの基本的な奏法に気を付けて演奏できるように、リズムや運指を確認する時間を設定する。	◇主旋律を、リコーダーと鍵盤ハーモニカの基本的な奏法に気を付けて演奏している。 <表現①>
	1	○『キリマンジャロ』の副旋律を演奏する。	○キリマンジャロの山のイメージを膨らませて、演奏に生かせるように、キリマンジャロの写真を用意する。	◇曲想とキリマンジャロの山のイメージを結び付けて記述したり、演奏に生かしたりしている。<表現・記述②>
	1	○『キリマンジャロ』の曲のイメージに合う楽器を選び、各旋律を演奏する。	○グループのイメージに合った音色の打楽器を試行できるように、複数の打楽器を用意する。	◇曲想の変化を意識しながら、グループの曲のイメージに合った音色に注目して打楽器を選んでいる。 <表現・記述②>
	1	○『キリマンジャロ』をグループごとに音を合わせて演奏する。	○グループの曲のイメージに合う打楽器の組合せや奏法を見付けられるように、グループごとに聴き合い、よさやアドバイスを伝え合う時間を設定する。	◇ グループの曲のイメージに合う音色で表せるように、打楽器の組合せや奏法を工夫している。 <表現・記述②>
・まとめる	1	○ミニコンサートを開き、グループごとに工夫した表現を発表しあう。	○曲想の変化に合わせて楽器の音色を工夫したことを実感できるように、発表の際に、グループごとのイメージと工夫したことを視点として一緒に提示する。	◇ 曲想の変化を意識しながら、グループの曲のイメージに合わせてアンサンブルを楽しんでいる。 <表現・記述①②③>
【備考】				
・DVD, 範奏CD, キリマンジャロの写真, 木琴, 鉄琴, 打楽器各種を準備する。 ・学習する音楽を形づくっている要素: 音色, リズム, 旋律, 強弱, 音の重なり, 呼びかけと答え, 変化 ・音符, 休符, 記号や用語: ナチュラル, くり返し記号(1・2番かっこ)				

音楽科 5年

題材	7 詩の世界を味わおう			12月(4時間)
目標	歌詞や旋律を基に、フレーズを生かした歌い方や強弱を工夫しながら、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌う。			
評価規準	(①知・技)歌詞に合った呼吸及び発音の仕方について理解し、呼吸及び発音の仕方に気を付けながら、自然で無理のない声で歌っている。 (②思・判・表)歌詞に合った旋律の美しさを聴いたり、歌詞や旋律を基に、フレーズを生かした歌い方について思いや意図をもったりしている。 (③主体的態度)楽曲に合った歌い方や自然で無理のない歌声に関心をもち、フレーズを意識しながら歌おうしている。			
教材	待ちぼうけ 北原白秋 作詞 山田耕筰 作曲 p44 冬げしき 文部省唱歌/石桁冬樹 編曲 へ長調 4分の3拍子 p50 スキーの歌 文部省唱歌/林柳波 作詞 橋本国彦 作曲 ト長調 4分の4拍子 p52			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『待ちぼうけ』を聴き、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 詩と音楽の関わりを味わおう	○詩とフレーズとの関わりに気付けるように、日本語のイントネーションと楽譜のフレーズとを比較する機会を設定する。	◇日本語の音に合わせて、曲がつくられていることに気づき、発言したり楽譜に記述したりしている。 <発言・記述②>
追求する	1	○『冬景色』の情景を思い浮かべながら歌う。	○情景を思い浮かべることができるように、歌詞に合う写真や動画を用意する。	◇歌詞から情景を思い浮かべて、曲想に合った歌い方を工夫することについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『冬景色』のフレーズを意識して歌う。	○フレーズを意識できるように、歌詞のまとまりや旋律に合わせたフレーズを楽譜に記述する時間を設定する。	◇歌詞や情景に合ったフレーズで、呼吸や発声に気を付けながら歌っている。 <表現①②③>
すまとめる・生か	1	○『スキーの歌』の情景を思い浮かべながら歌う。	○情景を思い浮かべることができるように、歌詞に合う写真や動画を用意する。	◇歌詞から情景を思い浮かべて、曲想に合った歌い方を工夫することについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
【備考】 ・A表現 (1)歌唱ア, イ, ウ(ア)(イ)(ウ) ・学習する音楽を形づくっている要素：旋律、強弱、フレーズ				

題材	8 日本の音楽に親しもう		1月(6時間)	
目標	曲想と日本の音階を用いた旋律との関わりを感じ取り、歌ったりつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。			
評価規準	(①知・技) 曲想と日本の音階を用いた旋律との関わりについて理解し、日本の音階を用いた旋律のもつ特徴を生かしながら聴いたり歌ったりつくったりすることができる。 (②思・判・表) 日本の音階を用いた旋律のもつ特徴を感じ取り、旋律に合った歌い方で歌うことや旋律をつくることについて思いや意図をもっている。また、日本の音階を用いた旋律を味わいながら聴いている。 (③主体的態度) 曲想と日本の音階を用いた旋律との関わりについて関心を持ち、進んで聴いたり歌ったり、日本の音階を用いて音楽をつくったりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『子もり歌』を律音階と都節音階の旋律で歌い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 日本の音楽の旋律のよさや美しさを見付けよう。	○律音階と都節音階の旋律の曲調の違いに気付けるように、音階に使われている音符を掲示し、それぞれの音階が使われている複数の曲を歌い比べる機会を設定する。	◇日本の音階である律音階と都節音階の違いや面白さに気付き、感じた違いをロイロノートに記述している。 <発言・表現③>
追求する	1 1 1	○『春の海』の、和楽器を用いた旋律を味わいながら聴く。 ○友達の聴き方で『春の海』を聴き、自分なりに感じたよさや美しさを見付ける。 ○『ソーラン節』と『かりばし切り歌』を、言葉の抑揚に着目しながら聴く。	○箏と尺八の旋律や、旋律の関わり合いに気付くことができるように、箏と尺八の旋律を示した総譜を見ながら聴く機会を設定する。 ○箏と尺八の旋律や、旋律の関わり合いについての、新たな気付きを得られるように、自他の感じたことや聴き取ったことを見合うことができる思考ツールを用意する。 ○言葉の抑揚に合わせた旋律の音の上がり下がりに気付くことができるように、旋律の音の高さの上下に合わせて手を動かしながら聴く時間を設定する。	◇箏と尺八の旋律や、旋律の関わり合いと曲想との結び付きに気付き、ロイロノートに記述している。 <記述①> ◇箏や尺八の旋律や、旋律の関わり合いと曲想との結び付きについての気付きを、思考ツールやまとめの感想に付け足して記述している。 <発言・記述②> ◇曲想や言葉の抑揚と旋律の動きとの関係に気付き、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①>
まとめる・生かす	1 1	○『音階の音で旋律づくり』のテーマを決めて、試しに旋律をつくる。 ○学習したことを生かして、『音階の音で旋律づくり』のテーマやイメージに合った旋律をつくる。	○五音音階を用いてつくる旋律のイメージを膨らませられるように、「冬の○○」のテーマで、冬休みの経験や日本の冬で想像できることを伝え合う機会を設定する。 ○日本の音階を用いてつくった旋律のよさに気付けるように、つくった旋律を聞き合う機会を設定する。	◇五音音階を用いて旋律をつくることについて思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> ◇曲想や日本の音階を用いた旋律との関わりに関心を持ち、自分のイメージに合う音を選び、旋律の音の動きを複数試しながら旋律をつくっている。 <発言・記述①②③>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素：旋律、音色、拍、速度 ・題材のつながり：4年「日本の音楽でつながろう」				

題材	8 感謝と祝福の気持ちを込めて			2月(3時間)
目標	歌詞や旋律を基に、フレーズを生かした歌い方や強弱を工夫しながら、自然で無理のない歌い方で二部合唱する。			
評価 規準	(①知・技)フレーズを生かした歌い方や強弱に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌っている。 (②思・判・表)歌詞や旋律を基に、フレーズを生かした歌い方や強弱を工夫している。 (③主体的態度)フレーズを生かした歌い方や強弱に関心をもち、進んで歌っている。			
教材	さようなら			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『さようなら』を歌詞唱したり、卒業式で歌う時の気持ちを話し合ったりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 感謝と祝福の気持ちが伝わるような歌い方で二部合唱しよう	○歌詞や旋律のまとまりに気付けるように、言葉や音楽の切れ目を書き込める拡大譜と拡大歌詞を用意する。	◇フレーズを生かした歌い方や強弱に関心をもち、歌詞や旋律のまとまりを楽譜や歌詞に書いている。 <記述③>
追 求 す る	1	○『さようなら』の副次的旋律を歌ったり、フレーズを生かした歌い方を工夫したりする。	○言葉や旋律の流れのまとまりと強弱を関連付けて考えられるように、フレーズごとに区切って強弱を試行する活動を設定する。	◇フレーズを生かした強弱を楽譜や歌詞に書いている。 <記述②>
ま と め る 生 か す	1	○『さようなら』をフレーズを生かして合唱する。	○表現の高まり感じ取れるように、自分たちの歌唱を録音して聴く時間を設定する。	◇フレーズを生かした歌い方や強弱に気を付けて、進んで歌っている。 <表現③>
【備考】 ・過去の卒業式のVTR、ICレコーダー、範唱CDを準備する。 [共通事項] (要素) フレーズ, 強弱 <その他> ・学校行事『卒業式A』: 卒業式練習においての時間的な関連を十分図るようにする。 ・5年音楽『感謝と祝福の気持ちをこめて』, 6年音楽『心をつなぐ音楽』と関連している。 ・学校行事『卒業式A』で『さようなら友よ』(1, 3番)は4~6年, 『ゴールめざして』(1, 4番)は4・5年で一緒に歌う。 ・国歌『君が代』は卒業式練習と関連付けて随時指導を行っていく。				